

# 学生の交通事故防止のための安全対策に関する調査研究 (～金沢大学内交通事故分析からみた交通マナーの向上と交通安全対策～)

## 代表

室谷 卓実 理工学域環境デザイン学類土木建設コース 3年  
齊藤 千晶 理工学域環境デザイン学類都市デザインコース 3年  
松原 卓也 理工学域環境デザイン学類環境防災コース 3年  
上坂 大 理工学域環境デザイン学類土木建設コース 3年

## 指導教員

高山 純一 理工研究域環境デザイン学系 教授

## 1. はじめに

### 1.1 研究の目的

金沢大学に通学しはじめて、もう4年目になる。3年間経過したことで我々も自転車、バス、原動機付き自転車、自動車など、いろいろな交通手段を使うようになった。一方で、金沢大学内で発生する交通事故の話聞くようにもなったし、その事故現場を目撃することもあった。さらに日ごろ、金沢大学内を通行していても危険な場所が目につくようになった。そこで我々は、金沢大学内において、交通事故が発生する可能性があるところ、ならびに実際に交通事故が発生している場所を調査し、その改善策を検討しようと思う。

具体的には、金沢大学の学生の交通事故を減らし、安全で、快適な交通環境（道路環境）をどのようにすれば作り上げていけるのか。また、どのようにすれば、金沢大学の生徒および大学を通勤している人達の交通マナーや交通安全意識を向上させることができるのか、明らかにしたい。昨年4月に金沢大学の生徒の死亡事故が起こったこともあり、いま関心もたれているテーマであるといえる。

### 1.2 研究の方法

次の4つの段階を踏まえて、調査研究を進める。具体的には、金大生に対するアンケート調査とこれまで金沢大学内で発生した交通事故の調査結果（事故調書等）を元に分析を進める。

- ① 事故データ（県警の事故調書等）を用いて、危険箇所を特定する。
- ② 自動車の一旦停止順守調査から、学生たちの交通ルールの順守状況を調べる。
- ③ アンケート調査の結果から、学生たちの運転や交通安全に対する意識を調べる。
- ④ ①、②、③をもとに、どうすれば角間キャンパス内での交通事故を減らすことができるのか、交通安全に対する意識を向上させるためになにができるのかなど、交通問題解決への糸口を見つけ、その対策案を提案する。また、我々の力だけで実現可能な対策案は実際に行う。

## 2. 危険箇所の選定

### 2.1 概要

角間キャンパス内の危険箇所の選定を行うために、平成21年から23年度の過去3年間の間に金沢大学角間キャンパス周辺で起こった事故の件数、場所、事故の状況について調べ、交通事故の原因につい

てまとめたグラフと、3年間で発生した交通事故の場所とその件数についてまとめた資料を作成した。  
この資料は、指導教員である高山教授に提供していただいた交通事故のデータをもとに作成した。

## 2.2 調査結果と考察

平成21年度から23年度までの過去3年間の事故データによると、大学内では交通事故が計47件もの事故が発生しており、その中で主に事故が集中している場所をまとめると、図1のようになる。サークルK付近の交差点で7件、中央の交差点で5件、サークル棟付近のT字路で4件の事故が発生していた。また、駐車場内の事故も多く、すべての駐車場で合計8件の事故が発生していた。また、駐車場での事故のほとんどが出会い頭の事故であり、原因は安全確認不足であった。このことから、駐車場だからと甘く見ている部分があり、運転手の交通安全意識が甘いということが考えられる。

事故の発生しやすい場所の特徴は、3か所とも坂になっているため速度が出やすいということ、交通量が多い場所であるということがある。そのため、事故も交通量が多く集中した場所が目立ったのではないかと考えられる。また、最も多く事故が発生しているサークルK付近では、交通量、歩行者、自転車、バイクが多く通行している危険な場所であり、多数の注意勧告の看板が設置されているにも関わらず、安全確認不足による事故が多く発生している。このことから、学生には危険の多い場所でも、あまり危険意識を持っていないことが考えられる。

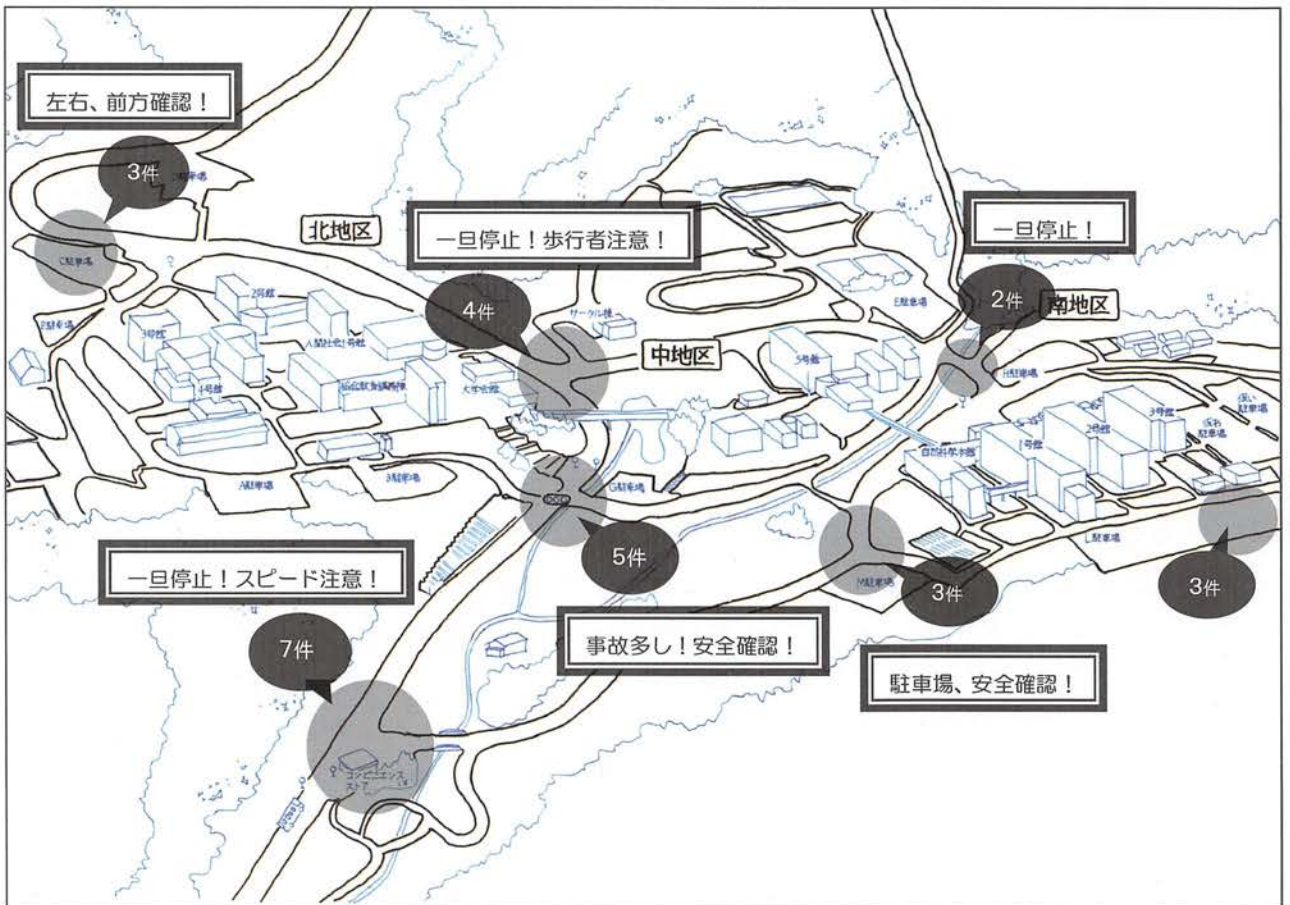


図1 危険箇所マップ

過去3年の事故データから、主に多かった事故原因は「前方不注意」、「左右安全確認不足」、「速度超過」の3つであるとわかった。

また、過去3年間に発生した交通事故全47件のうち40件が、学内者が加害者・当事者の事故であり、その約半分が駐車許可証を持っていない学生であった。本来ならば許可証を持っていないかぎり自動車での通学は認められていないため、事故の当事者はほとんどが許可証を持っているはずであるが、実際は半分しか許可証を持っていないというこの事実が意味することは大きいだろう。4年生になると駐車許可証を発行されていることが多くなるため駐車許可証を持っていない学生は1～3年であると思われる。特に1, 2年は運転免許取り立ての場合が多く、まだ運転にも慣れていないと思うので事故を起こす可能性があるだろう。そのため駐車許可証の有無の監視を強化することで事故を防ぐことにつながっていくのではないだろうか。

また、自転車絡みの事故も目立った。学生では自転車で通学する生徒も多く存在するが、無灯火や並走、ななめに道路を横断すること、下り坂を猛スピードで走行していくことなど、日頃の生活のなかで危険な運転も多く見られる。もちろんすべて自転車に責任があるわけではないが、事故を誘発する原因となっている可能性は否定できないだろう。

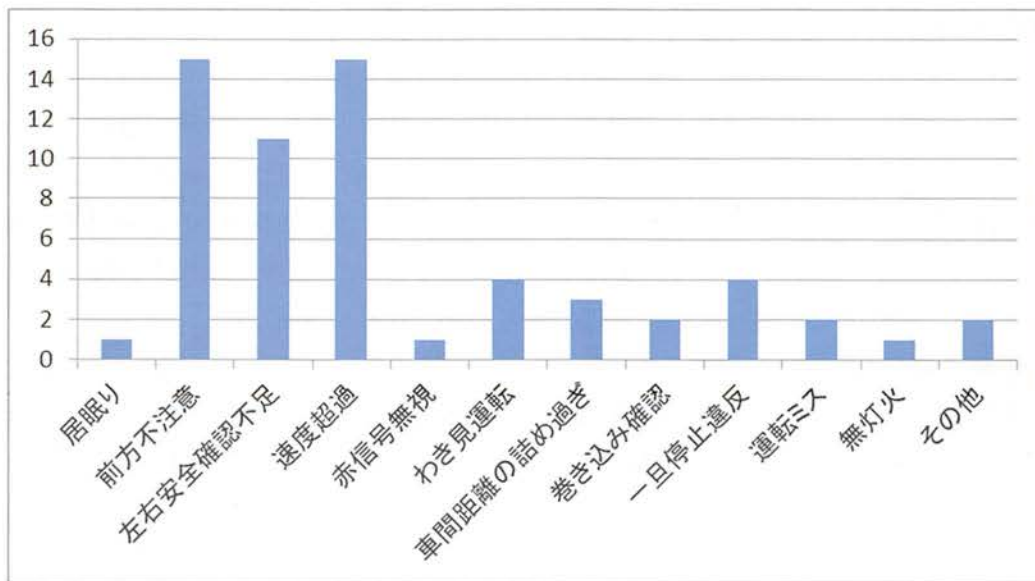


図2 事故原因

### 3. 自動車の一旦停止順守率調査

#### 3.1 概要

自動車で学内を運転している人たちはどのくらい交通ルールを守っているのかを調査するために、交通ルールの中から一旦停止を取り上げ、守っているかを調査した。調査場所は事故の集中していたサークルK前とサークル棟前の2か所のT字路と、我々が危険だと思う自然研付近の3か所のT字路を含め、計5か所を対象として行った。

#### 3.2 調査結果と考察

どこのT字路でも停止線前で止まる自動車は少なかった。多くの車は停止線を過ぎてから、安全確認を行っており、また歩行者や対向車がいたため停止線を越えた後で停止した、という結果だった。さら

に、T字路でまったく停止を行わない自動車も、2割以上見られ、特に多いT字路では6割にのぼる箇所もみられた。このことから、運転手の交通マナーに対する意識と交通安全意識が低いということが言える。調査した時期が冬だったこともあり、あたりは暗かった。また、調査した時間が夕方から夜だったこともあり、周りには人があまりいなかった。以上の2つのことから、「誰も見ていないからいいだろう」という意識から、一旦停止を守らない人が多かったのではないかと考えられる。つまり、監視している人がいれば、守る人が増えるのではないかとと思われる。

## 4. アンケート調査

### 4.1 概要

金沢大学に通っている人達の交通安全意識を調査するために、生徒・教員を対象にアンケートを行った。配布方法は、学生は大学内の食堂で声をかけてご協力をお願いした。教員に対しては、個別に部屋を訪ねてアンケートのご協力をお願いした。

### 4.2 調査結果と考察

今回のアンケート調査では、生徒549人、教員96人の合計655人から回答が得られた。

駐車許可証の有無に対する回答では、許可証がないのに学校へ週1回以上来ている学生は549人中107人だった。許可証がなくても常習的に学校に来ている学生が約5分の1程度いるとわかった。

通学中に違反したことがある交通ルールを聞いたところ、一旦停止と速度超過が圧倒的に多かった。一旦停止は、順守率の調査でも守っている人が少なく、ルールを守っていないと自覚はしているといえる。また速度超過は前述の事故データでも事故の主要要因であった。さらに交通違反に対する意識への質問では、交通違反をすべきではないという回答が半数を占めたものの、まわりに人・車がいなければ少しくらいは違反してもいいとの回答も4分の1程度みられた。

事故抑制に効果があると思われる対策への回答としては、過去の事故情報が1番多く、ついで設備などハード面対策が多かった。また危険箇所マップという回答も3番目にあげられた。この結果より、事故についての情報が学生や職員まで届いていないことがわかり、情報公開が望まれていると考えられた。

## 5. 対策

アンケートの自由欄に書かれていた事故を防ぐための対策や、我々が思いついた対策をいくつか挙げ、その対策を行うと良い効果がみられるのか、その対策が実現可能かどうかを調査した。

### ① 信号を設置する

金沢大学では、サークルK前のT字路に信号機の設置を警察に要望している。しかし、県内で1年に設置できる信号機の数は決まっており、まずは新たに建設される道路への設置が優先されてしまう。そのため、緊急性を有するもの以外では、既存の道への信号機設置の機会はなかなかまわってこないように、金沢大学も順番を待っている状態である。また、サークルK前のT字路は公道であり、信号機の設置は可能だが、サークル棟前のT字路等の学内道路は私道にあたるため、信号機は設置できないのである。

### ② 駐車場にゲートを設置する

駐車場にゲートを設置し、駐車を許可・認証された学生証をかざしてゲートをくぐれるようにするこ

とで違反駐車がなくなり、さらに、認証される学生を免許所得年数で制限することで駐車場内の事故も減らすことができると考えた。実際、一昨年度、金沢大学では駐車場の有料化に向けて具体的な検討を行っていた。しかし、コスト面の問題があり、現在は保留（継続審議）となっている。ただし、有料化の検討段階において、駐車場のゲート化は行わずに監視員の増員により違法駐車管理強化を行うことを想定している。

## 6. 交通安全新聞の作成

### 6.1 概要

我々は以上の研究結果を踏まえ、事故を抑制するための対策として新聞を作成した。その新聞を角間キャンパスにいる全学生に配布を試みた。配布方法は、全学生がほぼ集まる成績配布の日とオリエンテーションの日に配布物の1つとして配ってもらった。配布にあたり、学務の方々と学類長のご協力をいただいた。

### 6.2 新聞の内容と目的

新聞の内容は主に4つである。

#### ① 交通事故を抑制するための対策と、実現可能性を検討している記事

前述した対策はアンケートで多くの方が書いていた。つまり、誰でも思いつく対策であり、なぜ実施しないのかとも思っているはずである。そこで、対策の実現可否を新聞に載せることにより、自分たちの思いついた対策の実現可否を認知してもらい、新たな対策を考えるきっかけになればと思っている。

#### ② 交通事故が集中している箇所と発生原因などが記されたマップ

過去に金沢大学内で起こった事故の発生場所を調べると、事故が集中している場所があるということがわかった。しかし、その事実を知っている学生は少ないのではないと思われる。そこで、危険箇所マップを載せることで学生たちに危険箇所を認識してもらい、その場所を通る際に「あっ、事故が集中している場所だ。安全運転を心掛けなと。」というように安全運転を意識するきっかけになればと思っている。

#### ③ 金大交通安全クイズ

クイズを入れることで交通安全知識を得てもらい、その知識を活かして交通ルールを守ってもらえればと思っている。

#### ④ プチ情報

金沢大学では100円バスなど、いろんな実験的な取り組みを行っている。そういう取り組みを何のために行っているのか、どのような効果が出たのかをプチ情報として掲載することで、学生たちに交通安全に対する興味・関心を持ってもらえればと思っている。

## 7. おわりに

今回、我々は研究の成果を新聞として学生たちに配ったが、その新聞を全員が見てくれるという保障はない。その新聞を見るか見ないかは、学生たちの交通安全や交通マナーに対する興味・関心があるかないかと同じではないかと思う。今回の新聞をきっかけに興味・関心を持ってくれれば幸いである。